

# 日本少年野球 大阪南さくら大会 大会規定

1. 1チームの登録選手は11名以上18名以内とする。
2. 出場選手は大会の登録日締め切り日現在、連盟への登録済みの者に限る。
3. 登録選手及び登録されたチーム責任者(代表またはそれに代わる者でチーム責任者証を携帯している者)、監督、コーチ、マネージャーのみベンチに入ることが出来る。但し、各種登録証(チーム責任者、監督、コーチ)および審査証(選手)または選手手帳を携帯していない場合はベンチに入れない。
4. 組合せの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。
5. 監督(背番号60)、コーチ(背番号50)は選手と同じユニフォームを着用すること。
6. マネージャーは選手と同じ帽子を着用すること。
7. 試合開始時間60分前に試合場に到着し、到着と同時にオーダー表を5部本部に提出し、所定の審査を受けられるよう準備し、待機すること。
8. オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻・後攻をジャンケンで決める。
9. 試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに到着しない時には、球場責任者と責任審判員が協議して没収試合を宣言することができる。
10. (1)各試合は6回戦で行い4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から1時間40分を超えた場合、新しいイニングに入らない。(後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する)。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能となった場合はサスペンデッドゲームとする。  
(2)4回以降7点差の場合、コールドゲームとする。  
(3)6回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長7回(決勝戦は9回)あるいは試合開始から1時間40分(決勝戦は2時間)を超えては(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。  
(4)タイブレーク方式はタイブレーク実施細則に定める。
11. (1)投手は同一日に6回を超えて投球することができない。  
(2)ダブルヘッダーでは連投を認めるが、投球回数を6回以内とする。  
例えば、1試合目で5回投げた場合には、次の試合で1回投げることができる。ただし、端数回数(3/0回・3/1回・3/2回)は切り上げて1回とする。  
(3)投手の変化球は禁止する。
12. (1)監督またはコーチの指示、伝達は1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれ1回の指示、伝達を認める。  
(2)守備側の投手に対する指示、伝達が3回目となれば、自動的に投手交代となり、その投手は他の守備位置についても良いが、再び投手として登板することができない。  
(3)内野手(捕手を含む)が2人以上投手のところに行った時も1回に数える。  
(4)指示、伝達は審判がタイムを宣告してから「30秒以内」とする。
13. 1イニングで同一投手に対して指示、伝達が2回目となれば自動的に投手の交代となる。その投手は他の守備位置につくことができるが、同一イニングでは投手として登板することができない。ただし、新しいイニングに入れば再び投手として登板することができる。
14. 監督またはコーチが投手に指示などをする時は、マウンドの所で行うこと。(ベンチからは駆け足で)
15. 監督、コーチ及び選手は、審判のジャッジに対して抗議することを厳禁する。ただし、規則上の疑義申し出については、監督または問題の当事者のみが審判に説明を求めることができる。
16. 攻撃側チームの監督、コーチに限りチームと同色の両耳付きヘルメット着用の上、コーチボックス内でベースコーチを務めてもよい。
17. 各チームは同色のヘルメット7個以上、捕手の規定防具(マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファールカップ(一体型捕手マスクの場合はヘルメット、スロートガードを除く))2組を備えること。
18. ユニフォーム、バット、スパイク、グラブなどは連盟指定業者のものに限る。
19. スパイクは一体成型のポイント式であること。尚、監督・コーチは選手と同色で同ラインであること。
20. 捕手は必ずヘルメット及び規定防具を試合、練習を問わず着用すること。
21. 試合中の負傷については、主催者側で応急処置を行うが、それ以外の責任は負わない。
22. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
23. グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定している場合はそれに従うこと。
24. その他の規定は公 日本少年野球連盟主催大会規定並びに大会運用細則による。

## (タイブレーク実施細則)

### (1) 特別規則

- (イ) 延長7回あるいは試合開始から1時間40分を超えて(いずれか早い方)、決勝戦は9回あるいは2時間を超えて(いずれか早い方)、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は一死満塁の状態から行うものとする。
- (ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
- (ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が

二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。

(二)この場合の代打及び代走は認められる。

(2)チーム及び個人記録

(イ)投手記録

- ・規定により出塁した3走者は投手の自責点としない。
- ・完全試合は認めない。
- ・無安打、無得点試合は認める。

(ロ)打撃成績

- ・規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁死、得点、残塁などは記録する。
- ・規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。